◎　社会部門（中）

１　行事及び内容

月　日(曜)	活　動　内　容	活動場所	参加人数
５月２９日 （金）	第１回小中学校社会科教育研究委員会 ・年間事業計画等作成　・県中社研理事会報道	天草教育会館	研究委員 ６人
８月６日 （月）	天草教育研究所 中学校社会科部門 部門別研修会「海事産業見学会」 本渡港→八代港→八代港コンテナターミナル→ヤマハ熊本プロダクツ→熊本ドック→八代港→本渡港 ・八代港コンテナターミナルにて、施設見学。コンテ　ナを船に積み降ろしする作業及び一時保管を行う場　所見学 ・ヤマハ熊本プロダクツ着（施設見学）小型ボート用　の船外機の製造工場 ・熊本ドックにおいて、海上技術安全研究所の出前講　座、造船所施設見学会	熊本港 他	２７人
８月２０日 （月）	天草教育研究所中学校社会科部門　第１回定例会 授業の「ねた」プレゼンテーション会	天草教育会館	１０人
２月２８日 （木）	天草郡市小中学校社会科教育研究委員会 ・本年度の反省と次年度への志向		研究委員 ６人

２　天草教育研究所 中学校社会科部門 部門別研修会「海事産業見学会」

今年度は、九州運輸局熊本運輸支局の協力により、平成１９年制定の「海洋基本法」平成２０年策定の「海洋基本計画」に基づく、小学校、中学校及び高等学校の社会や理科等における海洋に関する教育の適切な実施など海洋教育の普及促進に係る研修の一環として研修を実施した。海に囲まれている日本において、貿易はほぼ船によって行われている。その海上貿易を支えている海事産業について見学させていただいた。

八代港コンテナターミナルでは、海外からのコンテナをどのように船から陸、陸から船に移動させるか、巨大な重機がフル稼働し、多くの技術者が関わり、日本の海上物流を支えていることが分かった。

ヤマハ熊本プロダクツでは、主にモーターボートの船外機を生産している工場、製造工程をガイドの方の説明を受けながら見学させていただいた。ヤマハは、楽器の製造でも有名だが、モーターボート、船外機の製造は世界でもトップクラスのシェアを誇っている。特にアメリカへはプレジャーボートと呼ばれるレジャー用の大型ボート・船外機を、東南アジアや中南アメリカ、アフリカには小型だが馬力のあるモーターボートの船外機を主に輸出している。ヤマハの製品は海外でも「高額だが、故障が少なく、製品の信頼は厚い。」と評価されている。

熊本ドックにおいては、海上技術安全研究所出前講座に参加し、燃費の向上を考え、風や波の抵抗を少なくした流線型の船体を持ち、太陽光エネルギーを動力に変えるハイブリッド船など、日本の最先端の造船技術について、具体的に学ぶことができた。造船所施設見学では、今まさに造船されている船体の製造工程を説明していただきながら、施設を見学することができた。

今回それぞれの施設を見学する中で実物や実際の行程を見せていただき、自分自身も海事産業

の実態の一部を初めて知ることができた。見学会を通して、海事産業に対する自分自身の認識も大きく変化した。この感動を授業を通して生徒にも味わわせたい。

３　天草教育研究所中学校社会科部門　第１回定例会　授業の「ねた」プレゼンテーション会

各学校でそれぞれ授業実践した授業の「ねた」を紹介する授業の「ねた」プレゼンテーション会を８月２０日（月）に行った。平日の夕方からの開催にも関わらず先生方にお集まりいただき、授業展開の紹介、効果的だったワークシート、資料、スライドなどの紹介を行った。それぞれの学校に持ち帰り、2 学期以降の授業実践に生かした。

今年度の取組に対する参加者の感想

○天草教育研究所 中学校社会科部門 部門別研修会「海事産業見学会」

・教師の見識を広げ、深めるために、現地研修はとても効果的だと思った。今年度は、海事産業に関することであったが、自分自身よく分からないことを知ることができたし、実際の工場内も見学することができたことはとてもよかった。日本の海事産業について授業での取扱を厚くすることで、学習指導要領に沿ったより深まりのある授業実践を積み重ねていきたい。

・八代港のコンテナの積み込みの様子を動画に保存した。授業で資料の一つとして活用したい。最近、社会科に関する動画資料を収集している。今回の研修に参加してよかった。

○天草教育研究所中学校社会科部門　第１回定例会　授業の「ねた」プレゼンテーション会

・普段の授業づくりに悩むことも多いが、天草の先生方の授業の「ねた」を共有し、参考にしながら自分の授業を育てていく取組は本当にありがたい。特に他の先生方の新しいアイディアを聞くことができ、若手とベテランの先生方のそれぞれのよさを自分の授業実践に取り入れ、参考とできることが素晴らしいと思う。

４　成果と課題

（１）成果

①今年度も、天草の社会科教員全員が協力して活発に活動することができた。

②昨年度の研究授業に続いて、今年度は現地研修、授業の「ねた」プレゼンテーション会など、新しい取組を実施することができた。

③全員で現地研修、授業の「ねた」プレゼンテーション会に取り組んだことで、互いによい刺激となり、研修会後もさまざまな形で情報交換の輪が広がった。

④作成した指導案等を共有化したことで、個人の教材研究が深化され、より充実した授業実践につながり、社会科のテーマの一つである「汎用性」の追求と「データ蓄積」を進めることができた。

（２）課題

①天草が広域のため、研修会への参加が厳しい先生方もいらっしゃった。

（３）要望

特記事項なし